

私にとって記念すべき平成 30 年

梅田 富雄(化工会)

平成の年として最後の師走を迎え、新しい年からは年号が変わるので、今年は誰にとっても記憶される年になると思います。平成の時代の前、昭和の時代の終わりに千代田を退職して筑波大学に移ったことで、30 年余りを企業人として過ごした後、平成の時代の始まりとともに大学で研究や教育に携わることになり、最初の 15 年余りを大学で過ごし、退職して残りの 15 年余りは無職になって現在に至っております。社会人として昭和時代を 30 年余り、平成時代を 30 年近く過ごしていることになり、今年は記念すべき年になっているわけで、関連するトピックスを取り上げることにしました。

これから挙げるトピックスのひとつには、東工大を卒業して千代田に入社した昭和 33 年から 60 周年を記念して化学系同期会が昨年 3 月 31 日に開催されたことです。

10 年余り前に千葉工大に我が国はじめてプロジェクトマネジメント学科の設立に関係したことから、幹事会からの依頼で、当日「プロジェクトエンジニアリングからプログラムマネジメントへ」について 15 分の講演を行いました。ここでの出会いとして 60 年ぶりに同じ高校を卒業した友人に巡り合ったこと、彼、井沢君が当日の講演についての提案をしたとのこと、久しぶりに高校時代の話をしました。60 年ぶりの再会ですが全く思い出せないのも卒業年次が違うこと(私は浪人して 19.7 倍入試の時に入学)で始めて会うことになったわけです。出会いを楽しみ、懇談会は盛り上がり、レコーダの伴奏で故郷を合唱して会はお開きになりました。



過去 60 年間を振り返ると、千代田で過ごした 30 年余りは、エンジニア、マネジャーとしての充実した日々で、関係者とともに、新しいコンセプトを頻繁に産み出し、成果の一部を海外で発表し、千代田の存在が認められた時期であったと自負しています。その後の 30 年はマネジメントに関する研究が中心でプロジェクト・プログラム学会や化学工学会に論文発表を行い、今も継続中の日々を送っています。生活する上での基本は、ストレスを貯めないこと、なすべきことが適当にあり、自己満足できることで、小さな幸せを感じて毎日を過ごすことに努めています。

次のトピックは、平成元年、千代田が輸入住宅事業を始め、その一つのケースとして建てたわが家は30年を迎えたことです。特に快適さに建て替えた時とあまり変わらず満足しています。当時植えた樹木は、うっそうとしてきました。当初一緒に生活していた息子たちは独立し、巣立っていきました。それぞれ自分の道を歩んでいます。



周辺の状況も著しく変化しました。子供がまだ小さかった頃、田んぼ道を通って少し離れた丘に遊びに行った場所は本年6月3日東京外環自動車道、三郷から高谷までが開通、全く違う風景になり、以前の風景は記憶に残っているのみになりました。



幸い、高台に住んでいるため、外環自動車道からの騒音などの影響もなく、市の中心への道路は渋滞が少し緩和されバスの運行がスムーズになったようです。毎日の散歩にも、もう一つ選択肢が増えるので、近々整備される道路わきの公園を今から楽しみにしています。週数回の近所の散歩で気付いたことは、ここ数年間に空き地が激減、今までの住居の大きさの半分近くの建物が増えていましたが、最近、小学生と出会う機会が増えたことで高齢者の世代から若い世代への移行があり、その結果であると思われました。昭和39年委現在のところに住み始めたころは、近所で冠婚葬祭に付き合うことも多々ありましたが、今では世代交代とともに近所付き合いはほとんどなくなりました。地域のコミュニティを維持することは難しいようです。高速道路わきの公園が整備されたときには新たな人の交流が生じるかもしれません。

以上、近ごろの様子を報告しました。一緒に過ごした関係者のことを思い出す平成の年もなくなりました。(2019:12:20)